

スクラム 411 で行く北関東・甲州ツーリング

旅行期間：2024 年 10 月 20 日(日)～10 月 24 日(木) 5 日間 走行距離 956Km

	月日(曜)	発着地	走行距離 天 気	スケジュール【宿 泊 地】
1	10/20 (日)	日 進 佐 久 市	272Km 晴れ	飯田街道・権兵衛街道・杖突街道・メルヘン街道・佐久甲州街道 蓼科高原、麦草峠、白駒の池、八千穂高原 道の駅:どんぐりの里いなぶ、信州平谷、南信州とよおかマルシェ、 田切の里 【佐久プラザ 21】
2	10/21 (月)	佐 久 市 前 橋 市	134Km 晴れ	北国街道・r33 地藏峠・天神峠 旧碓氷峠見晴台、熊野皇大神社・熊野神社、妙義神社、 榛名神社、榛名湖、ロープウェイ 道の駅:みょうぎ、くらぶち小栗の里、 【グレースイン前橋】
3	10/22 (火)	前 橋 市 川 越 市	141Km 晴れ	r4 赤城道路・r16 牛石峠・北関東やきそば街道・R407・R254 赤城神社、小江戸川越散策 道の駅:めぬま 【旅籠小江戸や】
4	10/23 (水)	川 越 市 下部温泉	173Km 曇りのち雨	青梅街道・大菩薩ライン・富士川街道 吉川英治記念館、御岳溪流(澤乃井・小澤酒造)、奥多摩湖、 道の駅:たばやま、とよとみ、富士川 【元湯橋本屋】
5	10/24 (木)	下部温泉 日 進	236Km 晴れ 時々曇り	みのぶ道・新東名高速道路(新清水～新城)・拳母街道 身延山久遠寺 道の駅:みのぶ、もつくる新城、つくで手作り村

2024 年の走り納めは、初めて乗るスクランブラータイプ(オン・オフロード両用)のロイヤルエンフィールド ヒマラヤスクラム 411 の、慣らし運転を兼ねたショートツーリング。又、コーナリング特性等に慣れるため、単純走行の高速道路は帰路の一部区間のみとし、下道と峠越えの道を選んで日程を決める。

10 月 20 日(日)

薄曇りでやや肌寒いが、ビッグシングルエンジンの鼓動感と振動が心地良く、休日の早朝で交通量の少ない飯田街道(R153)をゆっくり進む。足助宿を過ぎ、ライダーに人気の「道の駅どんぐりの里いなぶ」で、寒さに備え防風用にかっぱを着る。山間部に入ると道路脇電光表示の気温は 12 度前後だが、体感温度はさらに低く寒さをこらえながら山道を進む。標高 1163m の治部坂 峠を越え、「道の駅田切の里」で熱々の蕎麦を食べ暖まる。木曾駒ヶ岳の付近は雲に覆われていたが、伊那市を過ぎると快晴となって気温も上がり、杖突街道を軽快に走り蓼科高原に入ると八ヶ岳の雄大な景色が出迎えてくれる。

メルヘン街道のワインディングを楽しみながら麦草峠を越えると白駒の池に着く。日曜日とあってか、多くの観光客とトレッキングを楽しむ人が訪れていた。トレッキングシューズに履き替え散策道を 15 分程行くと視界が広がり湖畔に到着。紅葉を楽しむには少し早いのが、僅かに色づく木々と青空が湖面に映る姿はとても美しく、湖畔を一周したかったが、秋は日没が早く山間部は夕方になると気温が急速に下がり視界も悪くなるので、早めに切り上げ宿に向かう。

佐久プラザ 21 は部屋から浅間山が望め、健康ランドが併設されていて、のんびり湯につかり長時間のバイク走行で疲れた身体を癒す。



白駒の池駐車場と入口



入口標柱



池に向かう散策路



視界が広がり白駒の池に着く



山荘前の白駒の池

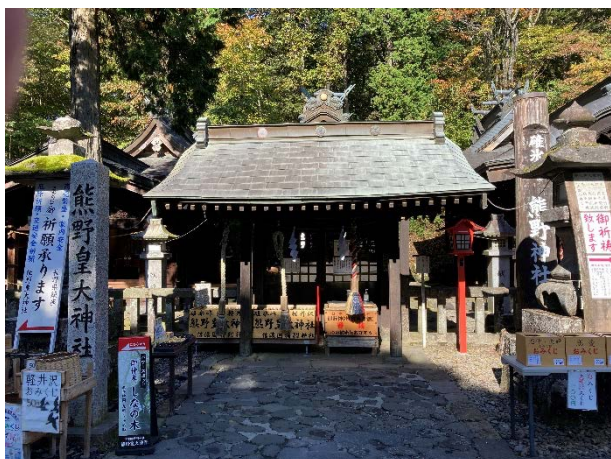


部屋から眺める夕暮れ時の浅間山

10月21日(月)

朝から青空が広がり気温も徐々に上がって快適に北国街道(R18)を走り、軽井沢駅から旧軽井沢へ続く道を、別荘地を通して急カーブの山道の上がると碓氷峠頂上の熊野皇大神社に着く。全国でも珍しい県境(長野県・群馬県)に鎮座し、群馬県側では熊野神社と呼ばれ、ヤマトタケルが建立したと伝わる古社。

近くの旧碓氷峠見晴台には県境の標柱があり、東に妙義連峰が望める。



熊野皇大神社



八咫鳥の御朱印



旧碓氷峠見晴台の県境標柱



険しい稜線の妙義連峰

山道を下り再び北国街道を東に向かい、碓氷峠を越えて群馬県に入り妙義神社に着く頃には汗ばむ程に気温が上がる。「道の駅みょうぎ」にバイクを止め薄着で境内に向かうが、妙義神社の石柱を見て、2019年夏の南東北ツーリングの往路で、雨の中立ち寄った時に駐車場が分からずバイクを停めたことに気付く。



妙義神社の石柱

2019年夏の写真 ➡



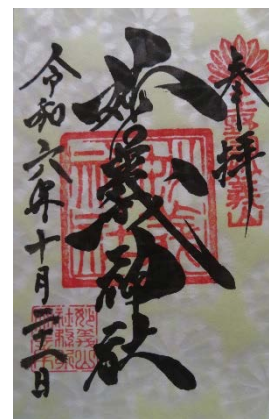
階段を上り境内へ



本殿までの長い階段



妙義神社本殿



御朱印

妙義神社は妙義連峰の主峰白雲山を背景に建立され、ビジターセンターまで上がると、荒々しい姿の妙義連峰が一望できる。



大鳥居と妙義連峰



ビジターセンター駐車場

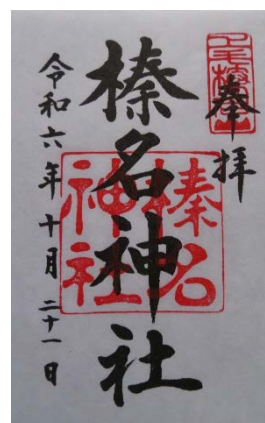
県道 33 号線に入り地蔵峠を越え、道の駅「くらぶち小栗の里」で休憩の後、さらに山道を進むと榛名神社に着く。参道にはごつごつとした岩がせり出し、パワースポットの雰囲気を感じられる。
残念ながら社殿は改築工事中で、全体がシートに覆われ見られなかった。



榛名神社山門



三重塔

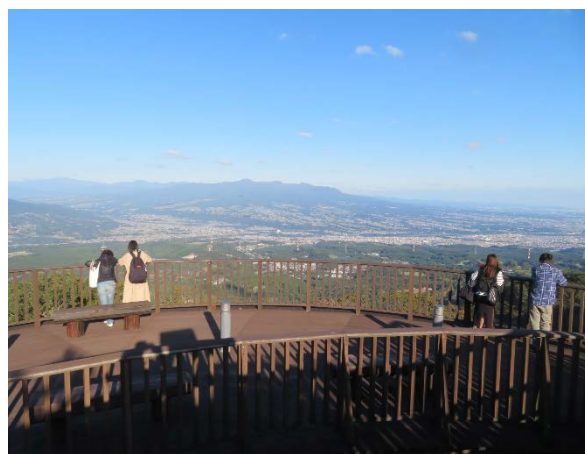


御朱印

天神峠を越え榛名湖に着くと、湖の向こうに榛名富士が美しい姿を見せる。温泉街を通り、ロープウェイで山頂に上がると展望台から遠くに赤城山が望め、明日も天気が良くなることを祈りながら宿に向かう。



榛名湖と榛名富士



伊香保ロープウェイ山頂展望台

10月22日(火)

ホテルを出るとすぐに赤城山まで続く赤城道路(県道4号線)に入り、青空の下、爽やかな風を受けながら軽快に走る。赤城山に近づくると緩やかな上りのカーブとなり、ワインディングを楽しみながら大沼の畔に建つ赤城神社に到着。早い時間で社務所も近くに沢山ある店も開いていなく、しばらく周辺を見て回る。

下りはルート都合で県道16号線を選んだが、舗装はガタガタ、小刻みの急カーブでその数90近くと、かつて経験したことのない陰道で、エンジンブレーキを多用し無事下山。

昼食は中京テレビで紹介された北関東焼きそば街道の太田市で「のれん会」の店を探し、ソース焼きそばを美味しくいただく。



赤城神社と赤城山



ボリュームたっぷりの焼きそば

川越までの途中、トイレ休憩のため「道の駅めぬま」に立ち寄ると汗ばむ程で、防風用に着ていたカップパを脱いでシートバッグのゴム紐にかけ、妻沼バイパス(R407)、R254を軽快に走り川越の宿に着くと、バッグにカップパの上着が無いのに気づく。車の流れに合わせスピードを上げて走ったため、風で飛ばされたようだ。(幸い予備のカップパを持っていたため、翌日の雨に困ることはなかった)

川越の宿は人が集まる中心部で駐車場がなかったが、バイクを玄関先に置かせていただけたので、チェックインを済ませ着替えて散策に出る。

蔵造りの町並みはテレビで見る風景と同じで、写真を撮りながら街はずれの広済寺まで行き、折り返して川越熊野神社まで戻り、薄暗くなるまで川越の風情を楽しむ。

川越蔵造りの町は、平日にもかかわらず多くの観光客が訪れていた。



伝統的建物にガチャポン



土蔵造りにお洒落な店舗



多くの人で賑わう蔵造りの町



広済寺



川越熊野神社の八咫鳥



旅籠小江戸や



川越熊野神社御朱印

10月23日(水)

下り坂の天気で、いつ降り出しても良いように全て雨天仕様で宿を出発。R16を南西に向かい、青海市に入り多摩川南側の道を進み吉川英治記念館へ。宿を早く出たため開館前で、建物外観をカメラに収め先を急ぐ。多摩川を渡り青梅街道を進むと、お酒の甘い香りが漂う小澤酒造に着く。川岸に御岳溪流が眺められる澤乃井園があり、営業前だったが係の方の了承を得て橋から美しい景色を楽しむ。



吉川英治記念館



多摩川・御岳溪流

小澤酒造を出るとポツポツを雨が降り出し、進むにつれて雨脚が強くなり、奥多摩湖に着く頃には本降りとなる。訪ねた証にと写真を撮り、山道を進んで「道の駅たばやま」で休憩の後、丹波(たば)溪谷を左に見ながら大菩薩ラインを上り、1472mの柳沢峠からはカーブ続きの道をスリップに注意しながらゆっくり下る。

甲府に近づくと雨脚は弱くなり、ぶどう畑の中を進んで「道の駅とよとみ」に着く頃には青空が見え気温も上がるが、富士川沿いの富士川街道(みのぶ道 R52)に入ってから不安定な天気、下部温泉に向かう橋を渡ると大雨になり、ずぶ濡れになって宿に着く。

元湯橋本屋は1865年・幕末の頃創業の老舗旅館。ご主人は10代目とのことだがとても気さくな方で、ずぶ濡れの姿を見て玄関横のガレージにバイクを入れさせてくれて、濡れたカッパ、ブーツカバー、ヘルメット、手袋等、部屋に持ち込まなくても良く、感謝感謝！

お湯はぬる湯と熱湯があり、ゆっくり湯につかり、美味しい料理をいただいて元気を取り戻す。



雨の奥多摩湖



「道の駅とよとみ」では青空が見える

10月24日(木)

宿を出る時は曇りだったが富士川を渡ると青空が広がる。昨日も同じで、川を挟んで天気異なるのは地形が関係しているのだろうか。

R52 を少し走り駿州往還に入ると程なく日蓮宗総本山・身延山久遠寺に着く。敷地はとても広く、三門からの長い急階段を上るとご利益があるとのことだが、厚着をしているので境内下の「せいしん駐車場」までバイクで上がる。境内は美しく、しばらく静かな時間を過ごす。

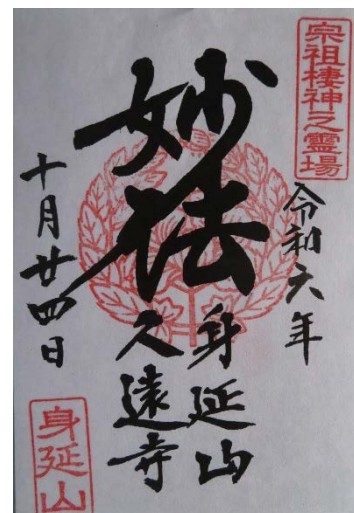
参拝を終え駿州街道(R52)を南下し、新清水 IC から新東名高速道路に入る。慣らし運転も終わったのでスピードを上げるが、制限速度の 120km が体力的にも限界のようだ。

新城ICで降り、「道の駅もつくる新城」で昼食をすませ走り出すと、右後ろから金属が振るえるような音が聞こえ、異音を気にしながらも信号がほとんどない拳母街道(R301)を軽快に走り、15 時頃無事帰宅する。

※異音は、サイドバッグに隠れてわからなかったが、マフラーの熱をガードする金属板がマフラーに小刻みに当たっていたため、ガード板を留めるネジ 2 本のうち 1 本が高速走行の振動で緩んで脱落したのが原因だった。



身延山久遠寺境内



御朱印

記：奥村正忠